

第6回 伊賀市中心市街地活性化基本計画策定委員会 議事要旨

- 日時：2024（令和6年）1月30日（火）14：00～16：00
- 場所：伊賀市役所 501 会議室
- 出席者：久隆浩委員長、菊野善久副委員長、藪本弘子委員、福永真司委員、山本禎昭委員、中村忠明委員、松井隆昇委員、南徹雄委員、濱津享助委員、木宮康介委員、平井俊圭委員、豊福裕二委員、杉山美佐委員、竹島弘美委員、宮崎寿委員
（欠席：濱崎久美委員）
- 事務局：産業振興部 堀部長、堀川次長、中心市街地推進課 内田主幹、乾主任、藤山
伊賀市中心市街地活性化協議会 山崎事務局長、上野商工会議所 佐治事務局長

1. 開会

2. あいさつ

久隆浩委員長よりあいさつ

3. 報告事項

（1）タウンミーティング実施報告（速報）

- ・ 南部住民自治協議会の意見交換会でも意見が上がっていたが、都市計画道路南平野木興線の整備が全く進んでいない。消防車、救急車も入れないため、火災等が起こった場合は心配されるエリアとなる。中間案の時点でも、南平野木興線の整備を計画事業として入れていただけないかと要望を出したが、難しいとのことだった。ただ、住民自治協議会の要望でもあり、伊賀市は自治基本条例を作っているため、特にまちづくりに関することは、住民自治協議会の要望に重きをおいていただきたいと考える。ご検討いただきたい。（委員）
 - 庁内の建設部と協議し、調整させていただく。（事務局）
 - 都市計画道路はいつか整備する必要がある。中心市街地活性化基本計画に記載することで、整備の優先順位が上がれば、地元住民の役に立つと思う。そのためには、道路が中心市街地活性化にどう役に立つのか、というストーリーを作ることが重要であるとする。（委員長）

4. 協議事項

（1）目標指標の設定について

- ・ 今回の議論で目標指標から落ちたものは、参考指標に回るのか、それとも完全に消えてしまうのかを、始めに確認しておきたい。（委員長）
 - どのような形になるかは未定だが、把握はしていきたい。（事務局）

1) 基本方針1「多世代が交流する、便利で住みよいまちづくり」

- ・ イメージしていた議論内容とは異なる。目標指標について議論をしていると思うが、第3期計画での事業内容が見えてこない。目標指標も重要であるが、第3期計画の事業の内容については、いつ話に上がるのか。(委員)
 - まずは目標を設定し、それを達成するための手段として、事業を行うといった流れで取り組んでいく。目標を設定した後に、事業に関する議論を進めさせていければと考える。(事務局)
- ・ 今回の目標指標の項目、算定根拠とする対象事業の数が多すぎるのではないか。また、資料としての進捗が見えないため、取り組む事業についてもっと具体的に記載する必要があると考える。(委員)
 - 今回の計画策定の流れとして、市民の皆さんの意見を聞くなど、丁寧な形で進めているため、このような議論の運び方になっている。事業に関しては、庁内でも検討しており、中活協でも検討していただいているが、なかなか進んでいないため、この議論には上がっていないことが現状である。また、第3期計画は、第2期計画のコンセプト等を踏襲しつつ、目標に対応する事業を整理し、計画に落とし込む流れだと考えている。(事務局)
 - 策定委員会に提出する資料は、事業の担当部署を記載するなど、具体的に掘り下げた内容を記載していただきたい。また、第3期計画は事業数を絞っても良いと考える。優先的、重点的にやるべきことがあるのではないか。さらに、事業への対応は行政のみでは難しいと考えているため、民間とも積極的に連携していただきたい。(委員)
 - 事業内容はいつ議論できるのか。スケジュールやタイミング等を教えていただきたい。(委員長)
 - 次回の会議から事業内容を取り上げたいと考える。(事務局)
 - 計画の柱が定まっていると、個別具体の話の方向性も揃ってくる。まずは、目標指標を決めた上で、事業に落とし込みたいということ。歯がゆいと思うが、まずは目標指標について議論させていただきたい。(委員長)
- ・ 3つの基本方針のなかで、基本方針1が一番重要だと思う。また、目標指標「中心市街地の45歳未満居住人口」は、若い世代の人数の増加がよく分かる。やはり、若い世代が増えていかなければ活性化は難しいため、この目標指標は必ず残していただきたい。(委員)
 - 「中心市街地の45歳未満居住人口」に加えて、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校への通学人数も入れていただければと考える。(委員)
- ・ 若年人口が増えることは、高齢化も改善の方向に向かうということ。仮に「中心市街地の45歳未満居住人口」を目標指標に設定して、進めていければと考える。(委員長)

2) 基本方針2「回遊したくなるまちなかの魅力づくり」

- ・ 目標指標の「伊賀上野まち百貨店」公式Instagramフォロワー数について、公式Instagramフォロワー数を測ることにしっくりこない。各店舗のInstagramのフォロワー数の総計であれば、より実数に近いものになると考える。(委員)
 - 例えば、WEB、SNSの部分で、まちの評価として1つの指標にはなると考える。「伊賀上野まち百貨店出店者数」と「伊賀上野まち百貨店」公式Instagramフォロワー数は、資料3でも△としており、参考指標に近いものになると考える。(事務局)
- ・ 「中心市街地の観光交流施設の利用者数」はオーソドックスな魅力を測るもの。一方で、「伊賀上野まち百貨店出店者数」と「伊賀上野まち百貨店」公式Instagramフォロワー数は最近頑張っている方がどれだけいるのかという評価になる。従来型で総花的に全体を追いかけるのか、あるいはピンポイントで最近頑張っている方を評価していくのかという大きな方向性の違いだと考える。(委員長)
 - これからの賑わいは2本立てになると思うため、どちらも必要になると思う。実際の賑わいと見えない賑わいを数値で追いかけることが重要だと思える。(委員)
- ・ 公式Instagramのフォロワー数が多ければよいというわけではない。公式Instagramが重要なのではなく、個人店の発信の頑張りが重要である。フォロワー数の指標は不要だと思う。(委員)
- ・ 伊賀上野まち百貨店の事業は、いつまで継続されるかわからない。伊賀上野まち百貨店の出店者数に限らず、まちなかで行われる全てのイベントを対象に、トータルでカウントしていくことが必要だと思う。そうでなければ、まちなかの集客に関する本来の姿が見えてこないのではないかと。1つの事業のみでは、なかなか推し測れないと考える。(委員)
 - 昨年11月に同じ城下町である小田原市で学会があったが、様々なところでマルシェやイベントが開催されていた。市長によると、市民が賑わいをつくりだしていくことに重点を置いて数年頑張っている、とのことであった。城郭の中でのマルシェ、キッチンカーの出店、オフィス周りでのイベントが繰り返し開催され、市民も楽しみ、観光客も賑わいを感じながら参加できる、とてもよい雰囲気だった。このように、イベントを積極的に追いかけてみることは、官民協働の賑わいづくりという観点でもよいと考える。また、イベント数は取りこぼしがちであるため、それぞれの部署が情報収集し、総計することが必要だと思える。逆に、指標に据え置くことで、しっかりと情報を押さえられるのではないかと。(委員長)
- ・ 回遊性の向上をどのように測るのが見えない。「中心市街地の観光交流施設の利用者数」は利用者数の合計で測るということか。まちの北側から南側に回遊させたいと言っているのだから、地点ごとの内訳を出せないかと思う。また、基本方針①の「歩行者・自転車通行量」についても、どこがどれだけ増えたのか、全体ではなく、中身の動的な部分をもっと少し見てはどうかと考える。(委員)
 - 観光施設の利用者数は、滞在については判断できるが、回遊性を判断するには難しい。回遊性において、これまでは中心市街地における歩行者・自転車通行量の計測

を年 2 回実施してきたが、今後は人流分析ソフトを導入し、概数ではあるが年間平均として路線ごとに計測できるようになる予定である。このツールを活用すると、季節別、時間別、平日/休日別、来訪者別等で分析することができるため、もう少し具体的な分析ができると考える。(事務局)

→ もっとアナログ的にやるとすれば、共通利用券、周遊バス等で計測する手もある。民間事業者が限定的な場所でしか使えないようなポイントカード、クレジットカード等をつくるのは、購買行動を把握できるからである。また、事業の話ではあるが、施設の利用者に買い物していただいたら割引クーポンをつけるなど、連続性をつくる方法はある。単体ではなく、繋いでいくことを意識した手法や事業を検討いただきたい。(委員長)

- ・ 検討案と並行して、観光客が訪れやすい、市街地に行きやすいような回遊路を作っていたきたい。現状、旧庁舎の工事現場はフェンスで囲われてしまい、観光客からは何を作っているのかわからない。(委員)

→ 最近の建設現場では、フェンスに絵を描くことで明るい雰囲気を出している。せっかくであれば、フェンスに未来像等を描いてみてはどうか。(委員)

→ 茨木市では、おにクルという複合施設の工事現場において、言葉のアーティストにフェンスに言葉を書いていた。アート作品の展示場として使っていた。同じ城下町の津山市では、同じように言葉のアートが書かれていた。このようなちょっとした工夫で文化的な色彩が出てくると思う。完成まで待つのではなく、積極的に文化的要素を入れていただき、それを見て歩けるような工夫ができればよいと考える。また、暗ければ、イルミネーションやプロジェクションマッピング等も使えると思う。(委員長)

- ・ 回遊したくなるまちなかの魅力づくりとして、今、この時代においてバーチャルな世界での魅力発信からは、逃れられないと思っている。観光交流施設の利用者数も 1 つの指標ではあるが、コロナ等で大きく減少する不安定さがある。だからこそ、SNS の発信に関する指標を設けた方がよいと考える。(委員)

→ 近畿大学の学生に、インスタグラムを用いた大学紹介の投稿において、そのフォロワーが一番多い学生に賞を与えるという試みをしたところ、精力的に紹介してくれた。このような試みにも取り組んでいただけたらと考える。(委員長)

→ 商工会議所が Google ビジネスをやっているため、そのデータも活用できるのではないと思う。また、ほとんどのお店がインスタグラムをやっているため、各店舗のフォロワー数も見ることができるのではないか。アナログの集計方法としては、城下町お菓子街道で配布している券の集計データも活用してはどうか。(委員)

→ 民間事業者はお客さんも利便性を感じる上に、データも集まるというツールをどんどん開発している。このようなツールを活用し、データを取る仕掛けを考えていただき、上手くいくようであれば、目標指標にも掲載できるような取組をやっていたと良いと考える。(委員長)

3) 基本方針3「伊賀の強みを誇りとして継承するまちづくり」

- ・ 忍者、芭蕉、上野天神祭の3本が伊賀の強みであるため、これらを目標指標に取り入れるべきだと考える。上野天神祭については、伝統継承の観点から、来場者数のほかに、各祭町における、だんじりの曳き手や笛の吹き手等の動員数の充足度も指標として取り入れてはどうか。また、俳句や芭蕉も取り上げていくべきだと考える。例えば、指標としては芭蕉祭における小中学校からの投句数の増減なども重要だと思う。神戸市では学校で書の取組が盛んであり、このようなことを目標指標として取り上げることは面白いのではないか。

(委員)

→ 例えば、忍者、芭蕉に関わる観光施設の利用者数と上野天神祭の来場者数を足し合わせて1つの目標指標にするといった方法もあると考える。ご検討いただきたい。

(委員長)

- ・ 上野天神祭の来場者数のカウント方法が曖昧であり、天候が悪ければ確実に来場者数は減少する。また、祭をどう盛り上げていくかは、祭町で考えていく課題である。それを中心市街地活性化の目標指標とするのは、違和感がある。祭と中心市街地活性化は違うところで考える必要があるのではないか。(委員)
 - 秋田県の角館市では、市民が中心市街地の商店をあまり利用せず、活性化に対して他人事になっていた。その中で、中心市街地の方々が「私たちは伝統行事である祭りを支える立場でもある。中心市街地が衰退することは祭りがなくなることであるが、角館としてはこれで良いのか。」と堂々と言っていた。このように、伝統文化を支える方々が中心市街地に居住していることをもっと表に出すことによって、中心市街地外の市民が、中心市街地の別の一面を再認識することにつながる。そのため、上野天神祭の来場者数を目標指標に取り上げるかは別として、きちんと位置づけておくことが重要である。また、祭町以外の多くの方は伝統を受け継ぐことの大変さに対する認識が薄いのではないか。その苦労を共有するという意味でも上野天神祭を位置づけることは意味があると考えます。(委員長)
- ・ 「中心市街地における新規開業数」は、他市の中心市街地活性化計画でも大体含まれているため、ぜひ取り入れていただきたい。取り入れていただけると商工会議所はより努力すると考える。また、「上野天神祭来場者数」はあくまでも主催者発表の数値であり、正確な数値ではないため、目標指標として妥当か気になる。もし、来場者数を計測するのであれば、AI等を使えばより正確な数値がわかってくるのではないか。さらに、このデータを主催者にフィードバックすることで、開催時間やごみの問題、警備の問題にも活かせると思うため、検討いただきたい。(委員)
- ・ 「中心市街地における新規開業数」について、基本方針1の細目方針「まちなかでの仕事・暮らしのコーディネート」に関連する指標だと思う。細目方針と事業の対応関係は重なる部分も含め、再度整理したほうが良いと考える。(委員)
- ・ 基本方針3において、他市の中心市街地活性化基本計画の事例には、伊賀市の参考となる目標指標はあまりなかったという認識で問題ないか。(委員長)

→ 歴史文化やシビックプライドを目標として掲げている中心市街地活性化基本計画

の事例は少なかった。(事務局)

→ 基本方針 3 がとても重要である。歴史性や地域性に対して取り組んでいることが、本来の中心市街地活性化の役割でもあるため、個人的には残してほしいと考える。基本方針 1、2 のようなにぎわい、居住部分に焦点があたりやすいが、伊賀市は伝統文化を培ってきた地域であり、もともとは中心市街地に公共施設、文化施設があり、文化の拠点でもあったはずである。このような歴史的資源のストックがある地域として改めて見直していただくためにも、基本方針 3 を充実した表現にしていただければと思う。(委員長)

→ 上野天神祭以外にも、文化度の高さが伊賀市にはある。伊賀市文化都市協会が赤井家住宅や史跡等を管理しており、そこで取り組まれている事業も第 3 期計画のなかに掲載していきたい。また、芭蕉や忍者などの文化施設の利用者数を目標指標に取り入れることも検討する。(事務局)

- ・ 今回の議論を事務局で検討し、次回の委員会で改めて提案していただきたい。(委員長)

(2) その他

- ・ 意見なし

5. 今後の予定について

- ・ 次回 令和 6 年 2 月 27 日火曜日 14 : 00 ~

以上